

## 編集 後記

この雑誌が皆様のお手元に届く頃には、(梅雨のある地域では)梅雨入りし、蒸し暑さも増してくる頃かと思えます。さて、73巻6号では、原著6編、資料1編を掲載しております。

村木氏らの原著では、既存・新規飲食店を対象に受動喫煙防止対策に関する情報源や法理解度を調査し、法令違反が疑われる店舗が約2割存在すること、とくに「屋内禁煙の原則」など重要項目の理解が不十分な店舗で違反疑いが多いことが示されました。一方、行政手続きの際の屋内喫煙環境の確認や情報提供を受けた新規飲食店では、法令違反疑いが少ないことも報告されています。

高橋氏らの原著では、約4万人を対象とした大規模調査により、総歩行時間および目的別歩行時間に関連する要因を分析しています。運動好きであることや車の運転頻度が低いことが歩行時間と強く関連し、生活活動としての歩行では「運転頻度の低さ」、余暇歩行では「運動嗜好」が最も強い関連を示しました。

王氏らの原著では、サービス付き高齢者向け住宅(サ高住)の入居者を対象に、住宅環境や社会参加と健康・ウェルビーイングとの関連を検討しています。その結果、スポーツや趣味活動への参加、友人との交流、家族以外との会話、自室への満足感などが、サ高住の質を評価する重要指標となる可能性が示されました。

平野氏らの原著では、新型コロナウイルス感染拡大下に妊娠・出産・育児を経験した母親の心理的变化を分析し、コロナへの不安や育児環境や対応への負担が心理状態を悪化させる一方、妊娠への喜びや周囲の支援が回復要因となることを示しています。また、有事における母子支援には、継続的な個別支援に加え、医療・保健・福祉の連携強化や社会的孤立を防ぐ環境整備の重要性が示唆されました。

眞浦氏らの原著では、全国の終末期高齢がん患者を対象に在宅療養期間と介護保険サービス利用状況を分析しています。在宅療養期間は中央値で2か月未満と短く、死亡前には福祉用具貸与、居宅療養管理指導、訪問介護、訪問入浴介護が集中的に利用されていた一方、ターミナルケアマネジメント加算の利用は限定的であることが報告されました。

田中氏らの原著では、全国がん登録データを用いて、新型コロナウイルス感染拡大ががん罹患数に与えた影響を分析しています。2020年には胃がんを中心に早期がんや検診発見例が大きく減少し、2021年には回復傾向を示したものの、コロナ禍における早期診断機会の減少がその後に与える影響について、今後の検討の必要性が

## 次号予告(第73巻・第7号)

### 総説

終末期がん患者の在宅緩和ケアの連携の質評価に関するスコアレビュー

……………吉田美由紀, 他

### 原著

地域包括ケアシステム構築のための研修ニーズの  
 説明: 地域包括支援センター職員に向けた  
 フォカスグループインタビューを通して

……………野川楓羽, 他

児童養護施設における居住形態別の食事提供体制  
 の実態とその課題……………吉田紘子, 他

日本の大学生におけるSNS利用時間と朝食摂取  
 パターンとの関連: 朝食・朝食兼用食・午前中  
 完全欠食の三分類に基づく検討

……………岩瀬裕三子

### 資料

産後女性の体重変化と体重復帰に関連する要因

……………白戸里佳, 他

子どもの健康情報に関する母親のインターネット  
 利用状況とeヘルスリテラシーの特徴

……………鈴木園子, 他

管理栄養士の生活習慣改善指導スキル向上を  
 目指したスキルチェック表の開発と予備的検討

……………安達美佐, 他

示されました。

鈴木氏の資料では、分析疫学研究における「情報バイアス」の基本的な考え方を解説し、比較群間で異なる共変数定義が研究結果に偏りをもたらすことを、シミュレーションにより示しています。

ご覧の通り、今号も多くの論文が掲載されております。以前編集後記を担当した際は4~5報程度でしたので、掲載論文数が着実に増加していることがうかがえます。一方で、今回は「公衆衛生活動報告」の掲載はございませんでした。本誌の読者には自治体等で勤務される実務家の方も多く、日常の地域保健活動の経験には、他地域の参考となる貴重な知見が数多く含まれていると思います。ぜひ実務家の皆様からも積極的にご投稿いただければ幸いです。

第85回日本公衆衛生学会総会でも、編集委員から発表者の先生方にお声がけさせていただくことがあるかもしれません。その際には、ぜひ本誌への投稿をご検討いただければ幸いです。  
 (大類真嗣)